

臨床福祉専門学校
言語聴覚療法学科 平成29年度 第二回教育課程編成委員会 議事録

日時：平成30年3月15日（木）13：00～14：30

場所：臨床福祉専門学校 202 教室

出席委員及び所属

田村 満子（NPO法人 こども発達療育研究所理事長）

園田 尚美（株式会社 言語生活サポートセンター 代表取締役）

内藤 明（言語聴覚療法学科 学科長）

馬目 雪枝（言語聴覚療法学科 教員）

記録：樋口 豊朗（事務局 教務課主任）

1. 学科長挨拶（報告：学内組織について）

平成30年度より、学内組織の変更を行う。

学科長は浜田 智哉教員、副学科長は黒川 容輔教員。

本委員会は来年度も委員の先生には継続してご協力頂くが、新体制の中でも改めてご助言頂きたい。

2. 教育課程変更について（馬目）

平成30年度より、教育課程変更の申請を行った。

一部科目の就業時間数を減らし、学校独自科目として「臨床福祉概論」（1年） / 「実習概論」（2年）の時間数を増やした。教育内容としては、兼ねてから本委員会でも議論されてきた、STとしての専門性を高める教育内容を網羅したものである。

「臨床福祉概論」では、小児施設・成人施設のそれぞれの見学は踏襲しているが、その前後に事前教育・振り返り等、一つの科目として位置づけをした。

「実習概論」では、外部実習行く前に、各領域に関する実習前練習を徹底的に行う教育課程とした。

3. 意見交換

（園田）：2年時の「実習概論」では実習前教育を徹底するという点では、素晴らしい中身であると思う。ただ、検査をして終わりというよりは検査の中身をどう患者に活かすか、どう個人に発展させるかが重要。特に失語・高次脳分野ではそれが大事である。

（内藤）：学生の質も人それぞれであり、すべてを網羅するのは極めて難しいが検査結果の活かし方についても、その最初の切り口だけでもつかめれば良いと思う。

（馬目）：1年次の「総論」の授業で、患者という視点・捉え方は繰り返し行うがその発展として「実習概論」の授業で教育するのが理想像である。

(田村)：資格を取った後、自分のやりたい分野（成人なのか小児なのか）が定まらないSTもいる。今回の教育課程変更の中で、そういった自分が望む分野に確信を持ち、意欲が出るような教育が行えれば、なおさら良い。

(馬目)：STの職業像はもちろん、関連する他の職種、医療職の実際を知るという事も必要になる。専門科目の中で是非網羅していきたい。

(田村)：最近の学生（授業）は講義よりも映像を重点とした授業が中心と思われる。グループワークを多用し、コミュニケーションを図り、授業の中で職業像が理解できれば、なおさら良い。

(馬目)：校内に附属してある、「ことばの相談室」の臨床現場の中身を動画で撮り、それを授業でも公開していくが、課題としては、学生自身が想像力に乏しいという点、つまりは考える事ができない、答えをすぐに求めるという事である。

(園田)：極力コミュニケーションが図れる授業のやり方を検討していく必要がある。

【まとめ】

過去の教育課程編成委員会で議論されてきた中身を網羅した教育課程変更を行い認可された。その具体的な中身を委員に再度報告し、了解を得た。

次年度以降は組織体制も変わる事により、何を重点的な視点を持ち、教育課程に活かせるか、改めて検討していく事とする。

以上